

ガーナ共和国の地理的区分（計10州）

ガーナの ARV 供給センター（2005 年 12 月現在）

| 州名 | 病院の名称 |
|---------|---|
| アクラ | コルレ・ブー教育病院 Korle Bu Teaching Hospital |
| 拡大アクラ州 | テマ総合病院（テマ） Tema General Hospital |
| 東部州 | コフォリデュア病院 Koforidua Hospital |
| 東部州 | アトゥア政府病院 Atuah Governmental Hospital, Atua |
| 東部州 | セント・マーティン・デス・ポレス病院 St. Martin des Porres HospitalHospital |
| アシャンティ州 | コンフォ・アモキエ教育病院 Konfo Amokye Teaching Hospital |

■ 5. 治療へのアクセス

(1) ガーナ政府の ARV 供給サイト

ガーナには 2005 年 12 月現在、全土で合計 6 つの ARV 供給サイトがあります。名称は以下の通りです。

○首都アクラ Accra

- コルレ・ブー教育病院 Korle Bu Teaching Hospital
 - ▶ アクラ西部コルレ・ブー地区の国立病院。

○拡大アクラ州 Greater Accra Region

- テマ総合病院 (テマ) Tema General Hospital
 - ▶ テマはアクラの東部に位置する都市。

○東部州 Eastern Region

- コフォリデュア病院 Koforidua Hospital
 - ▶ コフォリデュアは東部州の州都。
- アトゥア政府病院 Atuah Governmental Hospital, Atua
 - ▶ 東部州マニャ・クロボ Manya Krobo 地区に存在。
- セント・マーティン・デス・ポレス病院
- St. Martin des Porres HospitalHospital
 - ▶ 東部州アゴマニャ Agomanya に所在。

○アシャンティ州 Ashanti Region

- コンフォ・アモキエ教育病院 Konfo Amokye Teaching Hospital
 - ▶ アシャンティ州の州都クマシ Kumasi に存在。

東部州に ARV 拠点があるのは、ガーナの中で東部州の感染率が 7% と比較的高いことにより、米国の国際 NGO であるファミリー・ヘルス・インターナショナル (FHI) がアトゥア政府病院、セント・マーティン・デス・ポレス病院での ARV 供給を開始したことによるものです。

一方、ガーナ全 10 州のうち、ARV 拠点があるのは上記 3 州に限られ、北部の広大な地域や、ヴォルタ川東岸のヴォルタ州、コートディヴォワールとの

国境で感染率が高い西部州などでは ARV にアクセスできる公的な仕組みが全くありません。この不均等は、特に北部の人々に極めて大きな不公平を強いています。とくにアッパー・イースト州や西部州には前述の通り感染率が 7% 以上に達する地域もあります。HIV 陽性者団体などは早急な全国的 ARV 供給網の整備を要求しています。

(2) 治療へのアクセス

このように、ガーナでは ARV 供給は他国に比べてもあまり進んでいない現状があります。また、治療への費用についても、無料化はなされておらず、現在、公的システムで ARV にアクセスするには、1 ヶ月 5 万セディ (約 7 ドル程度) の費用がかかります。一方、かつては CD4 検査は 25 ドルでしたが、現在は上記治療拠点では無料化されているとのこと。

ガーナは南部に比べて北部が、また、都市に比べて農村部が圧倒的に貧困な状況にあります。北部に一つも ARV 供給拠点がなく、多くの HIV 陽性者は、南部の病院に行こうにも交通費もなく、アクセスがほぼ不可能な状態に置かれています。

こうしたことにより、ガーナでは、ARV にアクセスしている人口が 2005 年末現在で推定 4000-6000 人程度に過ぎない状況となっています。

■ 6. ケア・サポート組織概要

ケア・サポート団体はたくさん存在していますが、今回の調査では、アクラ周辺に所在する 4 団体の事務所に訪問してインタビューをすることができました。以下、紹介します。

ウィズダム協会 Wisdom Foundation

a)所在地 : Fever Unit, Korle Bu Teaching Hospital, Accra

※アクラ最大の国立病院であるコルレ・ブー教育病院の敷地内の建物の一面に事務所を構えている。

b)活動趣旨・沿革

ガーナで組織されていた HIV 陽性者のグループなどが連合して、1996 年に結成された。ガーナでは

ガーナ共和国

HIV 陽性者グループの事実上のネットワークとして機能しており、現在、公式の HIV 陽性者ネットワークを立ち上げるために努力している。

c)ガーナの HIV/AIDS の問題

- 治療へのアクセス不足：現在、ガーナには6つしか ARV 治療の拠点がなく、北部などには全く存在していない。そのため、北部の一般の人々は全く ARV にアクセスできない（※ちなみに、上流階級は ARV にアクセスしているとのこと）。
- スティグマと貧困化：ガーナでは HIV 陽性者に対するスティグマが強力に残っており、HIV 陽性が判明すると、家庭から追放されるなどして一気に貧困化してしまうことが多い。スティグマの解消とともに、HIV 陽性者の収入向上活動が死活的に重要である。
- 医療従事者の不足：ガーナの特に北部で ARV アクセスポイントがない理由として、医療従事者の不足が挙げられる。多くの医療従事者が欧米に流出してしまい、人材不足のせいで ARV 供給センターを設けられないという事情もある。

ガーナ・団結してエイズと闘う女性たち Woman United against AIDS in Ghana (WUAAG)

a)所在地：Off Coca-Cola Roundabout, Spintex Road, Accra
※首都アクラ郊外は地名が不完全であり、団体訪問において大きな支障がある。WUAAG はガーナ中心部から空港に近いテテ・クワシェ・インターチェンジ Tetteh Quarshie Interchange に行き、そこからスピントックス・ロード Spintex Road を直進し、その行き止まりにあるコカ・コーラ・ラウンドアバウト Coca Cola Roundabout を右折、すぐにまた右折して舗装されていない道路を直進したところにある。

b)趣旨・沿革

・ガーナの HIV 陽性者・HIV に影響を受けた女性たちの全国組織という側面と、アクラ周辺の HIV 陽性

者女性のケア・サポートを直接提供する組織という二側面を持っている。自身も HIV 陽性者のルーシー・メンサー氏 Ms. Lucy Mensah によって設立された。

c)活動内容

・HIV 陽性者女性・影響を受けた女性たちの自助活動、食糧支援、収入向上活動を展開している。現在、72 人の HIV 陽性者を対象に支援を行っている。
・また、HIV 陽性者の治療へのリファレンス等も行っている。医療拠点として連携を持っているのは、コルレ・ブー教育病院である。

d)ガーナの HIV/AIDS の問題

・スティグマが厳しいこと。これは、HIV に関する基本的な認識が多くの人に欠如していることから起きる。家具などを共有していると感染する、という誤解があるため、家族の一人が HIV に感染していることがわかると、その人を家庭から追放するなどのことが生じる。この点に鑑みても、スティグマの克服とともに、HIV 陽性者の食料支援や収入向上などが極めて重要である。

グッドウィル協会 Good Will Association

a)所在地：Abekan Fadama, Accra

※アクラ北部郊外のアベカン・ファダマ地区 Abekan Fadama に所在する。



グッドウィル協会の外観とスタッフ

b)趣旨・沿革

・ウィズダム協会の創立者の一人であるブランドフォード・イエボワー氏 Mr. Brandford Yeboah が新

たに設立した組織で、HIV 陽性者や影響を受けた人々の治療リテラシーの向上および治療アドボカシーを実施することが主目的である。

c)活動内容

・アクラ近郊の HIV 陽性者の食料支援、社会心理的ケア (Psycho-social Care)、ポジティブ・リビングの推進などを行っている。現在、食料支援の対象としている HIV 陽性者は合計 150 人である。
・また、HIV 陽性者が、自らの病気を理解し、治療を適切にすすめることができるような治療リテラシー活動を実施している。また、ARV が必要な HIV 陽性者を治療につなげる活動も実施している。

d)ガーナの HIV/AIDS の問題

・ガーナの HIV/AIDS の問題は、ARV 拠点の少なさやスティグマの問題以外に、「3つの統一」などのドナー協調に関して、政府が十分な能力を有しておらず、具体的な成果がなかなか上がらないという点にある。

■ 7. 国境を越えたリファレンスの方向性

上記のように、ガーナは国際的な HIV/AIDS 政策の方向性に従って形式上は適切に HIV/AIDS 対策を進めていますが、具体的なパフォーマンスの面では、必ずしも十分な進展があるとは言えない状況にあります。こうした状況で、日本で HIV 陽性が判明した
在日ガーナ人が帰国して ARV にアクセスすることは、ナイジェリア同様、なかなか困難であると言えます。しかし、帰国先の地域によっては、うまくケア・サポート・グループなどに連絡を取り、病院を紹介してもらうなどを試みれば、アクセスを確保することは不可能なことではないと思われます。ナイジェリアと同様、以下のことに注意して聞き取りをすべきと考えられます。

- ガーナのどの地域出身で、どの地方に帰国したいのか
- 親戚・知人などに有力な政治家、軍人、政府職員、医師などが存在するか。

- 現在の所持金はいくらくらいか。また、帰国先の家族・親戚などはどの程度の経済力を持っているか。

この聞き取りに従い、帰国先にあるサポートグループや医師などに連絡を取り、連携を作ることに力を注げば、可能性は十分にあります。地域的にいえば、首都アクラ周辺、東部州の特定地域、アシャンティ州のクマシなどに帰国する場合には、他地域に比べ、ARV へのアクセスを得られる可能性は相対的に高いといえます。

おわりに

2004年度の東アフリカ3カ国のHIV/AIDSに関するケア・サポート・医療の情報に続いて、2005年度は西アフリカのナイジェリア・ガーナについてご紹介してきました。

本件調査およびハンドブックにつきましては、「厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 NGOによる個別施策層の支援に関する研究」（主任研究者：樽井正義・慶応義塾大学文学部教授）のプログラムの一環として実施・作成されました。ナイジェリア・ガーナの現地調査につきましては、2005年12月にナイジェリアの首都アブジャで開催された「アフリカ地域エイズ・性感染症国際会議」の機会を活用して、稲場雅紀（(特活)アフリカ日本協議会）、川名奈央子（日本HIV陽性者ネットワーク）の2名のチームにより行ったものです。

東アフリカの三カ国同様、ナイジェリア・ガーナの二ヶ国でも、HIV/AIDSは国の課題の優先順位の一位に挙げられており、ここに記したものの以外にも、数多くの活動が取り組まれています。また、NGO、援助機関等で数多くの日本人がHIV/AIDSに関係して働いており、実際には、より多くの情報が把握されています。将来、これらを総合して、より包括的なガイドブックが作られることを期待しています。

最後に、本件調査およびハンドブックの作成につきましては、上記研究班の主任研究者である樽井正義先生にたいへんお世話になりました。樽井正義先生はじめ、関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

「NGOによる個別施策層の支援に関する研究」

ナイジェリア・ガーナ調査チーム

稲場 雅紀（(特活)アフリカ日本協議会）

川名奈央子（日本HIV陽性者ネットワーク）

参考文献ならびに本書作成にご協力いただいた皆さま

本書の作成に当たっては、以下の文献を参考とし、また、以下の皆さまにご協力を頂きました。ここに御礼を申し上げます。

<参考文献>

- UNICEF Nigeria [2002], "Children's and Women's Rights in Nigeria: A Wake-up Call", National Planning Commission, Abuja and UNICEF, Abuja
- National Action Committee on AIDS (NACA) [2005], "Nigeria: HIV/AIDS Country Report 2005", NACA, Abuja
- Positive Action for Treatment Access(PATA) [2005], "Positive Moments, Volume/Issue:1", PATA, Lagos
- 牧野久美子・稲場雅紀編 [2005], 「エイズ政策の転換とアフリカ諸国の現状」、アジア経済研究所、千葉県

<現地調査にご協力いただいた皆さま>

1. ナイジェリア

(1) アブジャ

- Oluchi Ebeku, Programme Officer(CM), Center for the Right to Health (CRH), Abuja FCT
- Ucha Osunkwu, Programme Officer(CM), CRH, Abuja FCT

- Cary Alan Johnson, Senior Program Specialists for Africa, International Gay and Lesbian Human Rights Commission (IGLHRC), NY, USA
- Olayide Akanni, Senior Programme Officer, Journalists Against Aids (JAAIDS) Nigeria, Abuja FCT
- Mr. Joyce T. Dakun, Executive Director, Fahariya Adolescent Network (FAANET), Plateau
- Mr. Dalang, Benjamin Samanta, Programme Officer (Administration), FAANET, Plateau
- Samaila Garba, Chairman, Coalition of Support Groups in Northern Nigeria, Kano
- Ms. Kiyomi Kaida, JICA Expert on Gender and Development, National Centre for Women Development, Abuja FCT
- Mr. Obatunde Oladapo, PLAN, Ibadan, Oyo
- Dr. Pat O. Matemilola, Coordinator, Network of People Living with HIV/AIDS in Nigeria (NEPWHAN), Abuja FCT
- Omololu Falobi, Executive Director, Journalists Against AIDS Nigeria, Lagos
- Mr. Shigeo Yamagata, President Representative, JICA Nigeria, Abuja FCT
- Musa Ngubane, Mask South Africa, Gauteng, South Africa
- Mr. Kingsley Essomeonu, National Coordinator, Association of Positive Youths in Nigeria (APYIN), Abuja FCT
- Mr. Dan V. Yakubu, Secretary SACA, Nasarawa State Action Committee on AIDS (SACA), Nasarawa
- Dr. Wole Daini, ex-director of CISHAN, Abuja FCT
- Deborah D. Kogi, Women in Nigeria, Bauchi State Branch, Bauchi
- Isah A. Ribadu, Civil Society on HIV/AIDS in Nigeria, Abuja FCT
- Adams Peter Ewyi, Rural Youth Advocacy Network, Abuja FCT
- Adebayo Taiwo Adefunke, Rays of Hope Community Foundation, Ijebu Ode, Ogun
- Humphrey Ubanyi, Coalition of Enugu State Support Groups Organizations, Enugu
- Oludare Odumuye, Alliance Rights Nigeria, Ibadan, Oyo

(2) ラゴス

- Mr. Patrick Obioha, General Secretary, Support Project in Nigeria (SPIN), Lagos
- Dr. Els Botha Standaert, Project Coordinator, MSF-Holland Lagos, Lagos
- Ms. Sumiko Koga, JICA Expert, Health Planning, JICA Nigeria, Lagos
- Ms. 'Rolake Oditoyinbo Nwagwu, Positive Action for Treatment Access (PATA), Lagos

2. ガーナ

- Cobbinah Mac-Darling, Co-ordinator, CEPEHRG, Accra
- Manju Chantani, Coordinator, Africa Microbicides Advocacy Group (AMAG), Accra
- Mr. Kofi Ampong, President of Wisdom Association, Accra
- Mr. Stephen Adu Sarpong, Wisdom Association, Accra
- Ms. Irene Kpodo, National Executive Member, Wisdom Association, Accra
- Mr. Brandford Yeboah, Executive Director, Goodwill Association, Accra
- Ms. Lucy Mensah, Executive Director, Women United against AIDS Ghana, Accra

帰国する在日アフリカ人 PLWHA と ケア提供者のためのガイドブック

サハラ以南アフリカの HIV/AIDS ケア・治療の現状
2. ナイジェリア・ガーナ編 (2005 年度版)

本件調査およびガイドブックの作成は、平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「個別施策層に対する固有の対策に関する研究」の一環として行われた。

2006 年 3 月 31 日 初版発行

編者●(特活)アフリカ日本協議会

発行人●林達雄

編集人●稲場雅紀

電話●03-3834-6902

F A X●03-3834-6903

E-mail●info@ajf.gr.jp

WEB●<http://www.ajf.gr.jp>

(財)エイズ予防財団の取組み

(財)エイズ予防財団
国際協力部 国際協力課
主任 柏崎正雄

エイズ予防財団の紹介

- 設立:
1987年(昭和62年)2月の政府による「エイズ問題総合対策大綱」の一部を実施するため、民間の協力の下、厚生省(当時)の許可により、同年6月に設立。
- 目的:
エイズの予防のための知識普及及びエイズの予防治療等の研究助成並びにエイズに関する国際的な情報交換等を行い、もって、国民の保健福祉の向上に寄与すること

エイズ予防財団の紹介

- 事業内容
 - エイズに関する正しい知識の普及啓発
 - エイズの診断、治療、予防に関する研究への助成
 - エイズに関する諸外国の情報収集と提供
 - エイズに関する国際会議、研究会等会合の開催
 - 日本エイズストップ基金の設置運営
 - その他本財団の目的を達成するために必要な事業

エイズ予防財団の紹介



エイズに関する研修会
検査・相談研修(5月15～16日)

普及啓発活動
HIV検査普及週間 街頭キャンペーン(5月29日)

エイズ予防財団の機能の見直し

- エイズ予防指針見直し検討会による報告書における「エイズ予防財団の機能の見直し」

エイズ予防財団には、以下の機能が必要とされている。

- 感染者・患者団体を含むNGO等との連携
- NGO等への人材育成支援および活動支援
- NGO等の情報を地方公共団体に提供できる体制づくり
- 支援するに相応しいNGO等の評価手法を確立する

エイズ予防財団のNGO連携の機能

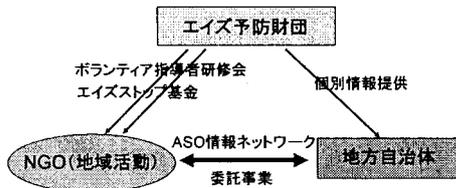
- NGO等との連携及びエイズ予防財団の機能の見直し検討会(2005年、6回開催)

検討内容

- 今後5年間の課題
- 5年間の課題に対する現状
- 現状の分析と改善点及び課題の整理
- NGO連携委員会の設置

エイズ予防財団のNGO支援

■ これまでのエイズ予防財団のNGO支援



エイズ予防財団のNGO支援 (今後の方向性)

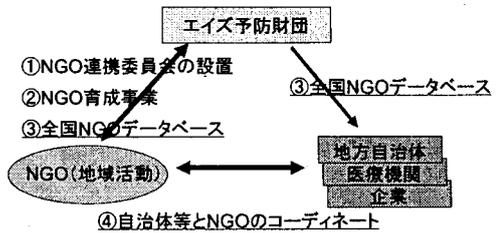
- ①NGO連携委員会の設置
 ONGO連携委員会の構想づくり
 ONGO連携委員会の設置
 →NGO支援・連携の調整機能が強化される
- ②NGO育成事業
 ONGOへの技術・財政支援
 (予防啓発・教育研修会、ストップ基金)
 ○ボランティア指導者研修会の改良
 →NGOの人材育成、活動支援が改良される

エイズ予防財団のNGO支援 (今後の方向性)

- ③全国NGOデータベース
 ONGOデータベースの定期更新
 ONGOの活動・運営の調査
 →NGOの最新情報が得られるようになる
 →NGOの信頼性を知ることができる
- ④自治体等とNGOのコーディネート
 ○自治体等への情報提供およびコンサルタント
 ○自治体等とNGO間のコーディネート
 →自治体とNGOの連携において、
 (財団が)相談できる機関となる

エイズ予防財団のNGO支援

これからのエイズ予防財団のNGO支援



NGO支援により期待される効果

- 財団によるNGO支援の取組みを進めることで、以下の効果が期待される。

自治体等の関係機関が、
 ○NGO等の情報にアクセスしやすくなる
 ○良質な人材・スキルをもつNGO等と協働できるようになる
 ○NGO等との連携による予防啓発プログラム及び感染者支援プログラムが実施しやすくなる

(付録) エイズNGO情報

■ 各種NGOリストからのエイズNGOの数

| リスト名 | NGO数 |
|------------------|------------------|
| エイズ予防財団ホームページ | 94 |
| 神戸会議NGO連絡会 | 47 |
| 東京都ホームページ | 15 |
| リーバイ・ストラウス財団助成団体 | 28 |
| 合計 | 134団体 (重複分除く) |

調査報告日: 2005年10月16日

平成 18 年度エイズ予防・啓発教育研修会 募集要項

1. 研修の目的：今回の研修では、講師からの支援・助言をもらいながら、受講生の皆さんに予防・啓発教育のメッセージを作る作業に取り組んでいただきます。この作業に参加することで、どのような視点が、切り口が、また資料が、予防・啓発教育活動を行う上で必要かという「気づき」をグループ学習のプロセスの中で得ることが出来、また今回の研修を通し、現場の活動に参考になるものを数多く持ち帰れると考えます。なお、本研修には、多様な背景の受講生が集まり、情報交換を行う場にもなりますので、2日間を多いに活用していただけるものと思います。
2. 日 程：平成 18 年 7 月 28 日（金）・29 日（土）
3. 研 修 場 所：天満研修センター（大阪市北区錦町 2-21）
4. 後援：大阪府健康福祉部（予定）、大阪市健康福祉局（予定）
5. プログラムの内容

【1日目・金曜日】

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 9：15～9：45 | 受付 |
| 9：45～10：00 | 開会 挨拶 オリエンテーション 講師紹介 |
| 10：00～10：20 | 研修オリエンテーション |
| 10：20～11：20 | 講義「HIV 感染症・疫学の基礎知識」 |
| 11：20～11：50 | アイスブレイク；グループ分け |
| 11：50～13：30 | 昼休み |
| 13：30～17：00 | グループ学習 グループオリエンテーション；各グループ活動 |
| 18：00～19：30 | 情報交換会 |

【2日目・土曜日】

| | |
|-------------|-------------------------|
| 9：30～11：30 | グループ学習 |
| 11：30～12：30 | 昼休み |
| 12：30～15：00 | 各グループ発表と展示 |
| 15：10～16：45 | 講師からのフィードバック；グループでの振り返り |
| 16：45～17：00 | 修了式 挨拶 |

6. 募集対象：現在、エイズの予防・啓発教育や予防介入に携わっている行政担当者、予防啓発に関心を持つクリニックや医療機関の関係者、教育関係者や HIV 活動に関っている学生、教育心理関係者、企業の担当者や衛生管理者、NGO 等